

写真は映画『709の人たち』より ©独立中文ペンクラブ



日本現代中国学会関西部会・関西大学映像文化学会共催
ドキュメンタリー映画『709の人たち』の上映とミニ・シンポジウム

中国における自由と権利 —社会的弱者救済を支援する人たちの今—

2018年2月10日(土) 13:00~17:00

関西大学 千里山キャンパス
第1学舎3号館5階 AV-B教室

阪急 千里線 「関大前」下車 徒歩約10分

「関大前」駅北口より出て、商店街を通り正門へ。正門に入って図書館前を左折(北方面)、「法文坂」を登り、突き当たり左側の建物(地図の1-3)に会場の教室があります。建物奥(北側)のエレベータで5階へお越し下さい。



*収容人数の都合上、参加ご希望の方は事前に日本現代中国学会関西部会宛に氏名・所属を電子メールにてご連絡ください。(メールアドレスは右記参照)

プログラム

13:00 開会のご挨拶

北川秀樹(龍谷大・関西部会長)

13:05 映画上映

『709の人たち』(92分)

15:00 ミニ・シンポジウム

阿古智子(東京大)

中国の国際的影響力の拡大：
人権問題を事例に

櫻井次郎(神戸市外国語大)

中国の環境と人権：汚染被害者の
司法救済の現状から考える

日野みどり(愛知大)

香港人にとっての「709」：
人権と民主政治をめぐる

司会：辻美代(流通科学大)

16:10 ディスカッション

■■お問い合わせ先■■

日本現代中国学会関西部会
jamcs.kansai@gmail.com

人権派弾圧 中国の今に迫る



拘束・尾

ドキュメンタリー映画『709の人たち』の背景について

2015年7月9日、この日を境に中国では300人ともいわれる規模で一斉に弁護士や活動家に対する取り締まりが行われました。約30人が拘束され、そのうち、逮捕、起訴され、有罪判決を受けた人もいます。依然、拘束を解かれておらず、どこで、どのように過ごしているのかさえ、わからない人もいます。事件の背景には、中国の民主化を警戒し、現体制の崩壊を恐れる習近平政権が、法律のエキスパートである弁護士たちに制裁を加えたとの指摘があります。

中国の人権派弁護士たちは、社会的弱者の権利擁護のために奔走してきました。夫や友人、知人の早期釈放を求める家族や支援者は、国際社会の関心と支援が力になると言います。日本では弁護士について、あまり報じられてはきませんでした。拘置所や監獄で弁護士らがどのような扱いを受けているのか、ほとんど情報がなく、懸念する声が上がっています。国際社会が関心を示すことで、彼らが適切な扱いを受けるようになるかもしれません。

主な関連報道

『朝日新聞』（朝刊）2017年11月1日「ひと」欄（盧敬華氏）

『朝日新聞』（大阪版朝刊）2017年12月5日「人権派弾圧 中国の今に迫る 香港の映画監督「709の人たち」7日上映会」

『朝日新聞』（朝刊）2017年12月10日「人権派弁護士の息子受難」（王宇弁護士）

『朝日新聞』（大阪版朝刊）2017年12月10日「中国人権派への弾圧迫る 映画「709の人たち」上映会」

『709の人たち』の監督について

監督の盧敬華さんは、1970年代末にカナダのヨーク大学で学び、弱者や草の根の人々の人権に注目するようになりました。その後、香港に戻り、小学校教師を経て、香港の公共放送局、香港電台（RTHK: Radio Television Hong Kong）で20年以上にわたって、『相對論』のディレクターや、『時事寛頻』『新聞刺針』の記者を務めました。1989年には、天安門事件の直前まで北京で取材を行っていました。「709の人たち」は盧さんにとって初めての映画で、香港の人権団体・China Human Rights Lawyers Concern Group（中国人権派弁護士支援グループ）の依頼を受けて、撮影しました。

